平成13年9月1日
9月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
ソムリエ　永井　栄氏
この人に聞く …… 2
元青年海外協力隊員　志賀　充氏
羅針盤 …… 2
藤川小学校長　山本　廣子
ふれあい …… 3
葵中　山田　義仁
井田小　寄田加津子
特集 …… 4
手作りの里に学ぶ
～ミニ・ビオトープ
やすらぎの森をたずねて～
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー …… 8
手作りの「科学館」（昭和37年）
この本を …… 8

教育随想

反応から始まること

ソムリエ　**永井　栄氏**

ワインの仕事に限ったことではないが、語学力は避けられない問題である。英語、仏語に限ったものではない。世界のワイン生産国の「言葉」に対する「感覚」が必要になってくる。

会話ができる必要はないのだが、ボルドーがフランスだというのと同じように、カンポ・デ・ボルハというのがスペイン、という要領である。最初は理解に苦しむところではあるけれど、前向きに自分のペースで覚えていくと「コツ」がつかめるようになって、一気に上達をする。

パソコンの用語、経理項目、ボランティア活動、例を挙げるだけでもきりが無いが、覚えるということに必要なのは調べる、記憶する、それ以上に反応を診ることだ。人に聞くのはもっともシンプルで、医師の初診はいい例だ。返事を聞くことで次に進む。パソコンでは入力したりクリックしたりして進む。西瓜をたたいて音を確かめてから切る。人はいつも何かに反応するし、反応を確認する。

受け入れて記憶し、応用するのはずっと後になるわけで、まずは反応そして興味を持つことから始まる。

何かを勉強するのには「未経験」が最高の素材になる。フランスに行ったことが無ければ「フランスに行きたい」と強く思っていられる。自分で調べるエネルギーも続く。テレビにフランスが映ると集中して見ることだろう。

本が世界で最も多くの人に利用されているのは日本をおいて他にない。誰にでも買える価格であることはもちろん、借りられる図書館の規模も別格。興味があるのに手段が無いものは挙げようと思っても困る。

こちら側で完結するのは悪いことではないけれど、「そちら」や「あちら」を思うことが技術とか知識とか、いや「役に立つ」というものに変わる。そこから善悪の判断をし、配分し、個性が生まれる。

テレビに一人で返事をする人が最高に上達の早い人になるのはそのあたりなのだろう。

・岡崎市出身、東京芸術大学卒
・ワインセミナー・雑誌・テレビ・ラジオで活躍中

スポーツを通しての国際協力

元青年海外協力隊員
志賀　充　氏

市長杯を間近に控えた七月初旬、志賀さんの母校である美川中学校でお話を伺った。グランドからは、部活動の掛け声が聞こえてくる。

中学生のときは、走高跳で全国大会に出場し六位入賞。その後も陸上を続け、城西高校、鹿屋体育大学卒業、筑波大学大学院体育研究科修了、東京医科歯科大学非常勤講師を経て、平成十年度青年海外協力隊に参加。パラオ共和国で二年間活動し、この五月に帰国された。「スポーツを通して国際協力をしたい」という強い思いから、協力隊員を志願された。

パラオでは、オリンピックコミュニティーに所属し、シドニーオリンピックに向け、組織の立ち上げ、予算作りから選手の育成にまで尽力された。野菜をほとんど食べないという食生活の違い。また、女性上位の国なので、男性の厳しい指導に反感を持つこと。競技スポーツがない国で、いかにトレーニングの重要性を伝えるかなど、オリンピックの華やかな舞台の裏で、たいへんな苦労をされた。しかし、初めてのオリンピックで堂々と行進する選手たちの姿を見て、感動ですべての苦労が吹き飛んだそうである。

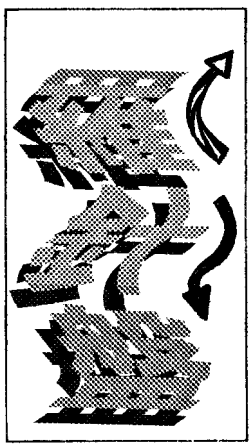
パラオでの二年間は、志賀さんに指導者として大きな自信を与えた。「今後も指導者としての場を持ちたい。スポーツを教える人間は、体が動く限りは体を動かして指導するべきだというのが、私のポリシーです。もちろん教員になれば他の仕事が増えますから、運動する時間はないと思います。しかし、体を動かす中で子供たちを教えていくというのが、スポーツを教える人間の本当の姿なのではないかというのが私の考えなんです。」

最後に、志賀さんにとって陸上とは何かをお尋ねした。

「いろんなものを与えてくれる学校みたいなものかもしれませんね。陸上を通して様々な国の人と巡り会えたし、パラオで国際協力もできました。一生、スポーツとかかわっていきたいと思います。」

一言一言丁寧に話される言葉から志賀さんの誠実さが伝わってくる。スポーツに対する豊富な知識と経験、そして、熱い情熱を持つ志賀さん。指導者として再び活躍される日も近いことであろう。

（氏　名　しが　みつる
生年月日　昭和四十七年四月二十二日
住　所　小美町入山一〇一番地）



育てる営み

藤川小学校長
山本廣子

昨今の不穏当な事件・事故の報道に加えて、中・高校生の問題行動が批判の矢面に立たされることも多く、健やかな成長を願う世の親たちの心を暗く不安にさせている。子供は社会の鏡。範となるべき大人たちが誠実で真摯な生き方を示さずして、よい子・よい社会人を育てることなぞ望むべくもないだろう。今、ここに深い隘路があるように思えてならない。

ＩＴ革命を軸に、激しい変化を続けている現代は、いろいろな意味で個人の生き方を守り通すことが難しくなっている。子育てにおいても、自分が当事者であったころに比べて、社会環境は著しく様変わりをし、我が家流の子育てを貫くことは至難の業であろう。幼児虐待、折檻死などのニュースを耳にするたびに、子育てに悩み、自信を失っている親の

二人の記録会

葵中学校　山田　義仁

「先生、プールサイドに立つと今でも胸が熱くなるよ。何でだろう。」

引退した三年生のA子が、後輩の試合を見に来たときの言葉だ。

A子は、水泳の経験があまりなく、泳げるようになりたい一心で水泳部に入部した生徒である。入部当初は、仲間とは全く別メニューで黙々と練習を積み重ねた結果、三年生の初めには、他の部員と同じ練習ができるようになった。

葵中水泳部員は、選手、応援者、そして競技補助員と、一人三役をこなすという目標を掲げている。A子は、補助員の仕事を積極的にこなすばかりでなく、応援リーダーとしてみんなをリードしていった。今思うと、選手で輝けない分、他の部分で努力していたのだろう。

そんなA子が、夏の最後の大会を前に、「先生、わたし西三大会に出られるかなあ」と言ってきた。その後、練習後に居残り、二人で何度もタイムを計った。しかし、何度計っても標準タイムを切ることはできなかった。

卒業文集には「あの二人の記録会のときは、悔しくて涙が止まらなかった。でも、わたしだけにかけてくれた先生の『がんばれ』という言葉は、わたしの生涯の宝物です」と綴られていた。

先生、見つけたよ

井田小学校　寄田加津子

「先生、見つけたよ。アゲハがミカンの葉っぱに止まったもんで、じいっと見てたら、ほら、こんなものついとったよ。羽を震わせて、おなかを曲げとったよ。」

A男の鋭い観察眼にはいつも驚かされる。

「すごいじゃん、アゲハの卵を産んでいるところが見られたの。先生も見たかったなあ。」

汗びっしょりになって、いつも虫を探し回るA男の生き生きとした姿が頼もしい。

彼の持ち込んだ、たった一ミリの黄色い卵は、みんなの好奇心を呼び起こし、幼虫の世話へと意欲を高めた。その結果、たくさんのチョウが教室から飛び立っていった。「うんちが出そうな青虫は、おなかが黒っぽく見えるんだよ」「カブトムシのおなかにある丸いもの（気門）は、息をするところだよ」など、「見つけたよカード」でもいろいろ教えてくれる。

子供と一緒になって見つけたり、学んだりしていく楽しさの他に、子供たちに教えられる楽しさもある。

この「小さな昆虫博士」は、今度は何を発見し、教室に持ち込んでくるだろう。

姿が目に浮かぶ。

新しい教育が目指す、人生を果敢に生き抜く力のある子を育てるために、これが一番という方法はないだろうが、数年前に読んだあるスポーツ選手のことを思い出した。

それは、あのテニス界の天才少女、マルチナ・ヒンギスのことである。ヒンギスの母は、我が子の子育てに四つの視点を設定した。

①子供の好奇心は宝の芽（ラケット）
②彼女が飽きるまで付き合う
③次々と目標を与える
④必ず報酬を与える（手放しで喜ぶ。無条件で褒める。人から喝采（かっさい）を受けることは何よりのごほうびだ）

母は、この四つを根気強く実践する中で、ヒンギスのやる気を引き出し、そのやる気が高い集中力につながり、それがよい結果を生み出した。

幼いころから、このよい循環を積み重ねたことと、「コートに立てば自分だけ。目標は自分だけの力で達成させるしかない」と考えた母の揺るぎない信念が、あの強いヒンギスを育てたようである。

家庭でも学校でも、ヒンギスの母親のように信念を持って子供に接することが育てる営みの根元であろう。

手作りの里に学ぶ

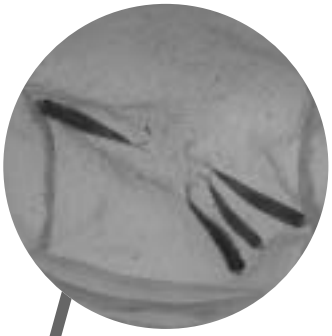
ミニ・ビオトープ　やすらぎの森をたずねて

新旧の国道二四八号線に挟まれ、大型ショッピングセンターが隣接する場所に、トンボが乱舞し、メダカが群れをなして泳ぐ一画がある。中部電力岡崎支店が、環境問題を考える場として取り組んでいるミニ・ビオトープ「やすらぎの森」である。

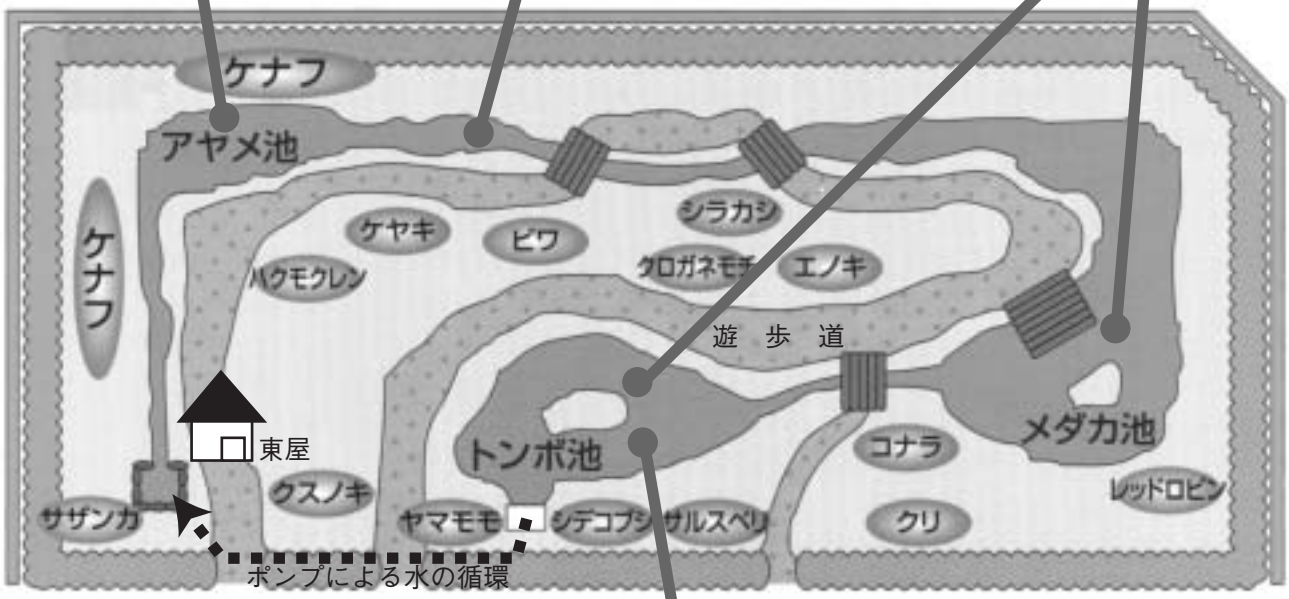
約一六〇㎡の池を有する総面積約一〇〇〇㎡の環境には、平成九年からの取り組みによって、様々な生物が安定して生息しつつある。アシやガマが群生する池は、トンボの産卵や羽化の場でもあり、水面を赤色のショウジョウトンボ、青色のシオカラトンボなどが飛び交う。池の中では、目にすることが少なくなった水生昆虫タイコウチが見られ、絶滅危惧種とされているメダカやカワバタモロコの姿も見られる。年三回ほどの清掃と月一回の管理点検はするが、植物に肥料を与えたり、動物に餌を与えたりすることはなく、食物連鎖などの生態系が作られつつある。池を循環する水は水道水のため、カルキが含まれている。そのカルキの除去や汚れの浄化については、一部で火力発電所から排出された石炭灰（クリンカ）を試験的に利用しているものの、基本的には、水生植物の浄化作用を利用している。

ここは、一般公開されており、学校関係者や子供たちが、環境学習のために訪れる。担当者から成果とともに語られる反省点である「実のなる木がないと鳥が来ない」「川を直線にすると流れが速く、生物がとどまれない」などは、これからビオトープを作ろうとする者に大変参考になる。

▶タイコウチ


▶三島小が放流したカワバタモロコ

▲群生するガマ



▲やすらぎの森上面図（20M×50M　『中部電力岡崎支店パンフレット』より）

▲人工的に作られた小川

▲ショウジョウトンボ

▲川に沈められた石炭灰（クリンカ）

また、社員のアイデアにより、学校への働きかけがあり、各校の環境学習の成果も取り入れられている。カワバタモロコは、三年前に三島小学校が放流したものであり、最近では、緑丘小学校からＥＭ活性液を取り寄せ、水質浄化を試みた。

平成十三年七月現在、ビオトープ作りや野生生物の保護に取り組む小中学校は、市内六十校中二十校である。学校間はもちろん、地域や企業の取り組みに学ぶとともに、成果を交流し合うことは、今後、ますます増えてくるだろう。

お知らせ

●教育研究所だより

○県外研修報告

私たちが訪問したのは、新学習指導要領全面実施を次年度に控え、数年前より次の主題のもとに実践研究を進めている神奈川県の二校である。

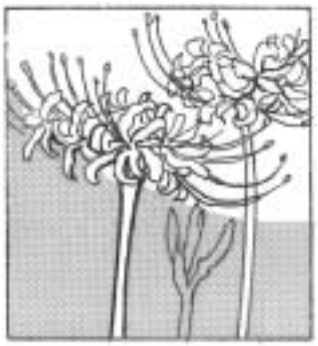
・川崎市立古川小学校
「地域と共に創造する授業のあり方」についての研究

・小田原市立三の丸小学校
「学びを育てる総合学習」についての研究

両校とも、地域からの協力体制も整い、自然な形で地域の人々や学校を取り巻く地域そのものが、子供たちの生活や学習と結び付いていた。

とりわけ、三の丸小学校では、学校が「ヒューマンサービス機関」としての役割を意識して、次の点に力を入れ、学校運営した成果が見られた。

①足を向けやすい学校・入りやすい職員室づくり
②学校教育への理解促進のための積極的な情報発信
③三の丸コミュニティー（学校評議員制）の効果的運営
④多様な学びのための教育ボランティア組織作りと運営



総合的な学習を進める上で二校に共通していたのは、地域の特色を踏まえ、年間計画のスリム化を含めて教育課程の厳しい見直しを進めていた点である。特に、古川小学校の「児童の自己評価能力を育てるための評価について」の研究の掘り下げは、興味深かった。その一部を記す。

・教師の評価は児童の自己評価を育成するという認識
・メタ認知（課題意識や目的意識）に必要な能力の分析
・評価の観点を、過程や結果、関心・意欲・態度、友達関係、単元形成上の観点等から明確にし、関心・意欲・態度を階層的に分析

今回の研修は、総合的な学習の評価の在り方を学ぶよい機会となった。より一層、見取りと支援が的確にできる能力を養うことと、教科と総合的な学習のよさを生かす実践を行えるよう研鑽（さん）を積んでいきたい。　（緑丘小　長坂）

総合的な学習Ⅲ班員
大樹寺小（本多）、緑丘小（長坂）
矢作西小（森）、本宿小（中立）
恵田小（水越）

▲三の丸小「課題を決めよう」

教育情報　知っていますか？国の施策

二十一世紀教育新生プラン　七つの重点戦略

一　わかる授業で基礎学力の向上を図ります
・基本的教科の二十人授業や習熟度別授業の実現
・新学習指導要領の実施
・IT授業や二十人授業が可能となる教室の整備

二　多様な奉仕・体験活動で心豊かな日本人を育みます
・奉仕・体験活動の促進
・「子どもゆめ基金」の創設
・道徳教育の充実
・家庭・地域の教育力再生のための取組

三　楽しく安心できる学習環境を整備します
・文化・スポーツ活動の充実
・問題を起こす子どもに対する適切な措置
・有害情報等から子どもを守る取組

四　父母や地域に信頼される学校づくりを行います
・学校の自己評価システムの確立、「学校評議員」制度の導入による開かれた学校づくりの推進
・保護者の参加や、情報公開による教育委員会の活性化
・地域の主体性を生かした新しいタイプの学校の設置促進

五　教える「プロ」としての教師を育成します
・優秀な教員の表彰制度と特別昇給の実施
・指導が不適切な教員への厳格な対応
・教員の社会体験研修の大幅な拡充
・教員の資質能力の向上

六　世界水準の大学づくりを推進します
・次世代リーダー養成のための教育・研究機能の強化
・大学の競争的環境の整備
・厳格な成績評価

七　新世紀にふさわしい教育理念を確立し、教育基盤を整備します
・新しい時代にふさわしい教育基本法の見直し
・教育振興基本計画の策定

◆新しいＡＬＴ来日

七月に任期を終えたＡＬＴのマリッサ先生とティム先生の替わりに、二名の先生が来日した。

二学期からの活躍を期待したい。

・スティーヴン・Ｋ・タナマチ（アメリカ出身）写真右

・ディヴィッド・Ｓ・ロー（アメリカ出身）写真左

また、昨年十月よりカナダ出身のレベッカ・Ｓ・ハロウェイ（写真中央）も熱心に指導にあたっている。

◆第十八回ＮＨＫ杯全国中学校放送コンテスト愛知県大会

・テレビ番組部門

最優秀　東海中学校

入　選　常磐中学校

・ラジオ番組部門

優　秀　矢作中学校

・朗読部門

優　秀　葵中三年　内田　晴香

入　選　城北中二年　板倉　麻衣

・アナウンス部門

優　良　葵中三年　小早川好子

◆平成十三年度愛知県健康推進学校表彰校

特別優秀校　北野小学校

北中学校

岡崎小学校

入選校

◆河川の美化愛護（国土交通省）

中部地方整備局長表彰

矢作北中生徒会

◆第三十六回交通安全子供自転車愛知県大会

三位　竜美丘小自転車クラブ

◆全国中学生カヌー大会

・カナディアン一人乗り

三位　新香山中　坂田　啓輔

・カナディアン四人乗り

三位　新香山中　高山・坂田　加藤・宮本

・カヤック一人乗り

三位　新香山中　斉藤　礼未

・カヤック二人乗り

二位　新香山中　阿部　友輔　川島慎太郎

▲西三河中学校選手権大会柔道の部（中央総合公園にて）

●平成13年度岡崎市小学校体育大会結果

種目		性	優勝	第2位	第3位	
ソフトボール		男	岡崎	六ッ美南	梅園	大樹寺
		女	梅園	連尺	附属	羽根
バレーボール		男	矢作南	上地	矢作北	梅園
		女	六ッ美南	奥殿	上地	矢作東
バスケットボール		男	矢作北	三島	梅園	連尺
		女	竜美丘	竜谷	上地	矢作東
サッカー		男	上地	広幡	小豆坂	岩津
水泳競技	北ブロック	男	矢作東	矢作北	附属	
		女	広幡	附属	矢作南	
	南ブロック	男	三島	山中	六名	
		女	上地	山中	三島	

●第54回岡崎市中学校市長杯総合体育大会

種目	性	優勝	第2位	第3位	
陸上競技	男	東海	六ッ美	南	
	女	矢作北	東海	矢作	
バスケットボール	男	矢作北	竜海	南	城北
	女	甲山	竜海	南	竜南
バレーボール	男	矢作北	竜南	北	額田
	女	矢作北	額田	六ッ美	北
ソフトテニス	男	北	常磐	福岡	矢作北
	女	常磐	額田	城北	矢作
卓球	男	矢作北	幸田北	幸田南	額田
	女	額田	幸田南	六ッ美北	岩津
体操	女	東海	南	竜海	
新体操	女	東海	北	矢作	
剣道	男	常磐	矢作	南	幸田北
	女	幸田南	六ッ美北	幸田	矢作
ハンドボール	男	葵	竜南	美川	
	女	竜南	六ッ美北	美川	
軟式野球	男	東海	福岡	城北	竜南
ソフトボール	女	矢作北	城北	竜海	矢作
柔道	男	甲山	六ッ美北	竜海	北
	女	甲山	竜南	矢作	
サッカー	男	甲山	竜南	矢作北	新香山
水泳競技	男	竜海	甲山	矢作北	
	女	竜海	城北	矢作北	

●第54回岡崎市中学校市長杯総合体育大会総合成績

成績	男子総合	女子総合	男女総合
優勝	矢作北	矢作	矢作北
2位	竜南	矢作北	矢作
3位	東海	竜海	東海
4位	矢作	東海	竜海
5位	甲山	南	竜南
6位	南	北	南

・カット　本宿小　山口泰代

フォト・ヒストリー 岡崎の教育

手作りの「科学館」（昭和37年）

当時の碧海郡六ッ美町立北小学校（現六ッ美北部小学校）の教室に手作りの「科学館」が設置された。ここには、子供たちが体験しながら、滑車やてこの原理を学ぶことができる教具などが、先生たちの手で作られていた。現在の理科教育は、直接経験を重視し、身の回りの自然や事象を教材化し、学習しようとするものだが、これと相通じる先生方の思いが伝わってくる。

また、この当時、いろいろな学校で、工夫を凝らした先生方の創意による教具や教材が多く作られ、子供の学習に生かされていた。

写真提供　六ッ美北部小学校

オアシス

思い出いっぱいの夏休みが終わり、新学期が始まった。

暑い夏に行われた参院選も終了し、これから痛みを伴う構造改革が進められるようである。

学校も先生も、二〇〇二年を前にして意識改革を必要とされているようだ。

時刻表の前に立ち止まり、汗をぬぐう学生。残暑厳しい中、二学期がスタートした。汗ばんだ額に時折感じる涼しげな風が、秋の到来を告げている。

ふと見上げると、知らぬ間に鰯雲（いわし）がたなびいている。子供たちはどんな秋を見つけるのだろう。

アサガオの観察やラジオ体操はかつて子供たちの夏休みの日課だった。毎日続けるのは大変だが、休み中の生活のリズムにもなっていた。今年は例年以上の猛暑で、熱中症で倒れる子供も出た。二学期に入っても残暑は続く。生活のリズムを戻して、実りの学期にしたい。

水面下には、メダカの学校があった。その上を水色メガネのトンボが飛んでいた。

昔、どこにでもあった光景は、都市化の波に消えつつある。虫かごを肩にかけ、たもを持って駆ける子供を絶滅危惧（きぐ）種にしてはならない。

この本を

＊生きるという航海　石原慎太郎
　海竜社　￥1500

＊森のなかの海　上・下　宮本　輝
　光文社　￥1600

＊花のある人花になる人　草柳　大蔵
　グラフ社　￥1400

＊岡崎の探鳥地ガイド　岡崎野鳥の会
　岡崎野鳥の会　￥1500

＊「教育の崩壊」という嘘　村上　龍
　NHK出版　￥1300

少年時代から自分の受けた教育になじめなかったという作家村上龍が、あえて、教育の問題を真剣に考え、取り組んだ。

教育問題の本質を探るための「藤原幸博」「河上亮一」「三沢直子・妙木浩之」「小川洋」「江川紹子・小宮由美」と作者との5編の対談は、読みごたえがある。

教育界を復活させるには、権威ではなくコミュニケーションによるコントロールが大切であり、大人が子供にどう希望を示すことができるかであると力強く語る。